

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ボーアズ&ガールズ(児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	年 月 日 ~ 年 月 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日 ~ 令和7年11月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月5日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職（保育士・看護師・理学療法士）を配置 配置数も十分であるため行き届いた支援ができる。	各職種の職員が専門分野での役割を担いながら 一人一人のこどもに合わせた総合的な支援ができるよう連携を取り協力している。	一人一人の個性を大切にしながらデイの仲間と 過ごす時間が充実したものになるよう集団活動の内容を 工夫していく。
2	保育所等や他事業所と連携を図り こどもの状態の把握と適切な対応を行っている。	迎えの際にはしっかり申し送りを聞き、 またM C Sを活用して主治医や他事業所とも 連絡を取り合っている。	保育所等見学だけでなく他事業所での様子など 見学させて頂く機会があれば活用していく。
3	内部研修だけでなく外部研修や連絡会・担当者会議で得た 情報や知識をパート職員も含めた全職員で共有し、 支援に活かしている。	外部研修の案内等があった時は掲示または回覧にて 職員に知らせている。	情報共有だけで終わることがないよう ミーティングで話し合いをし、支援に繋げていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会や保護者同士の交流ができていない。	児童全員が数か所の事業所を利用していることや 就労している保護者も多いため 保護者会等を希望される方がいない。	なるべく保護者の負担にならない範囲で できる交流はないか検討していく。
2	地域のこどもたちと接する機会が少ない。	入浴や医療的なケアが必要なため 地域との交流は難しい。 また、コロナ渦以降ボランティアさんが減ってしまった ことも大きな要因である。	こどもたちが外に出るのは難しいが、ボランティアさんの 募集をして外部の方の訪問を増やしていく。
3	家族支援が十分にできていない。	保護者向けの研修等があれば案内しているが 重度心身障害児向けの研修が少ない。	保護者への案内だけでなく職員対象の研修にも 積極的に参加していく。 主治医等と連携を密にしチームケアで支援していく。